

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) クラフター編



革細工師クエスト

革細工師ギルド 入門編

革細工師ギルド受付

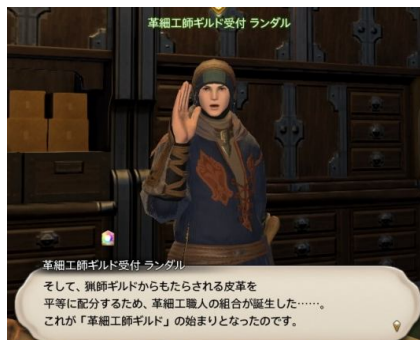
ランダル： いらっしゃいませ、ここは「革細工師ギルド」。
動物達から「革」という生命を預かり、新しい命へと昇華させる職人たちの集う場所です。
革細工師は、主に防具製作を手がけております。
軽くて丈夫な革防具は、特に格闘士や弓術士といった機動性を重視する職種の方に好まれているんですよ。
革細工師になりたいのであれば、わが革細工師ギルドに入門し、学ぶことをお勧めします。ギルドへの入門をご希望されますか？

いいえ

……左様ですか、残念です。とはいえギルドマスターのゲヴァ様は非常に厳しい方。
無理に入門することは、間違ってもお勧めいたしません……。
もしも革細工師ギルドへ入門したくなりましたら、いつでも声をおかけください。
ギルドについて詳しくご案内させていただきますよ。

革細工師ギルド受付 はい

ランダル： 左様ですか。では所定の手続きに入る前に、私ランダルから革細工師と、ギルドの歴史を簡単にご説明しましょう。
黒衣森は、自然の恵み豊かな土地。それゆえグリダニアでは、古くから狩猟が盛んで、
同時に、獣革を加工する皮革産業も発展してきました。
革を使うには生き物の命をいただく必要があります。
無秩序な狩りは、黒衣森を司る精霊の教えにより建国当初から固く禁じられていました。
グリダニアの猟師たちは、**狩猟の許された獲物の取り合いが起こらぬよう**、猟師たちの組合「**猟師ギルド**」を発足させました。
そして、**猟師ギルドからもたらされる皮革を平等に配分するため、革細工職人の組合が誕生した……**。
これが「革細工師ギルド」の始まりとなったのです。
今でこそ、冒険者からの皮革の買取も一般化し、革を使った製品は身近なものとなりましたが、
ひと昔前は、革そのものが、たいへん貴重な品でした。
素材への感謝を理念としたグリダニアの革細工は、丈夫で整備しやすいという品質の高さと、
無駄のない加工方法を両立させ、エオルゼア随一のものとなったのです。
現在、我が革細工師ギルドに受け継がれる技術は、**グリダニアの誇る一大革細工ブランド「フェン・イル」**にて、遺憾なく発揮されています。
無論、フェン・イルに品を卸せるのはごく一部の職人のみ。
我がギルドの職人の多くは、フェン・イルの商品棚に製品を並べる日を夢見て、日夜腕を磨いているのです。
……ふう、つい熱く語ってしまいましたね。いかがでしょう、革細工師ギルドの素晴らしさについておわかりいただけでしょうか。
あなたの革細工の腕は、我がギルドでこそ磨かれる。ええ、それは、間違いありません。
エオルゼアに名を馳せる革細工師を目指すおつもりでしたら、我が「革細工師ギルド」へ入門することをお勧めいたします。
入門にあたっては、私から手続きを紹介いたしましょう。心の準備が整いましたら、私「ランダル」に声をかけてください。



革細工師ゲヴァ親方

革細工師ギルド受付

ランダル：我が「革細工師ギルド」に入門して、革細工を学ぶ覚悟が決まったということですね？

いいえ

まだ覚悟ができていない、と……。ええ、ええ、しっかりとお悩みください。
革細工師は「命」を扱うという言葉の重み、よく考えになった上で決めた方がよいでしょう。
さもないと、あなたの命が……ぶるっ。

はい

かしこまりました。では入門の手続きを進めるにあたってギルドマスターの「ゲヴァ」様をご紹介します。
ゲヴァ様は、革細工に並々ならぬ情熱を抱くお方。あの「フェン・イル」にも数多く品を出し、エオルゼア中に彼女のファンがいるのです。
もちろん、革細工師としての腕も超一級。彼女の設計した型紙は無駄が少ないことで有名で、「ゲヴァパターン」として知られているのです。
我が「革細工師ギルド」に入門するには、ギルドマスターであるゲヴァ様に認めていただくかねばなりません。
さあ、作業室に向かい、その意思を伝えてください。……無事をお祈りしていますよ。

ゲヴァ：ふうん……入門希望者、ね。

受付のランダルから聞いてると思うけど、革細工師の仕事は「命」を扱うもの。その責任は果てしなく重いわ。
エオルゼアに名を成す「革細工師ギルド」の一員になるってことは、代々ウチの革細工師が背負ってきた責任を受け継ぐってこと。
言うておくれど、指導は容赦しないわよ。途中で逃げ出すようなら、そうねえ皮をひんむいてチョコボの鞍にでもしてやるわ。
あんた、本当にウチのギルドでやっていく覚悟はあるの？ 今ならまだ、チョコボの鞍にするのは待ってあげるわよ？

いいえ

ゲヴァ：素直でいいわね。じゃあ今すぐそのドアから帰ってくる？ アタシもいちいち相手してられるほどヒマじゃないのよ。

はい

ゲヴァ：あんた、本当にウチのギルドでやっていく覚悟はあるの？ 今ならまだ、チョコボの鞍にするのは待ってあげるわよ？

……そう。覚悟は決めてきたってことね。いいわ、革細工師ギルドへの入門を認めてあげる。

とはいえ、今のあんたは素人の素人。教えるための準備すらできていないって状態よ。

まずはこの「ウェザードヘッドナイフ」をあげるからきちんと装備して「革細工師」らしくなってごらんさい。

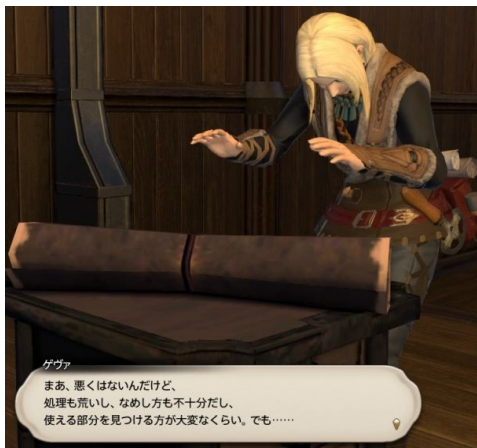
ナイフを装備すれば誰だって「革細工師」になれるわ。けど、ウチの革細工師を名乗っていいのはアタシが認めたヤツだけよ。

装備ができれば、アタシに声をかけなさい。あんたが口先だけのヤツじゃないか、確かめさせてもらわね。



一枚の可能性

- ゲヴァ：ちゃんとナイフを装備したようね。ナイフは革細工師にとって、なくちゃならない道具。くれぐれも大切に扱いなさい。それじゃ道具も装備したことだし……さっそくだけど、あんたの腕を試させてもらおうかしら。
「レザー」を1枚、作ってごらんなさい。「レザー」の材料は、「柔らかな粗皮」よ。
ああ、先に教えておくけど、「柔らかな粗皮」はギルドの受付の横にいるオスギスが売ってるから、彼女から購入できるわ。それから、製作には「シャード」も必要よ。今回なら「アースシャード」ね。これも忘れずに調達しておくのよ。
これだけ説明したんだから、材料が見つからなくて作れません、なんて言って泣きついてこないでね。
はいそれじゃ頑張って。あんたがどんな「レザー」を作ってくるのか……ま、期待しないで待ってるわ。
- ゲヴァ：「レザー」を1枚、作ってごらんなさい。材料の「柔らかな粗皮」は、ギルドの受付の隣にいるオスギスから購入できるわよ。あんたがどんな「レザー」を作ってくるのかまあ、期待しないで待ってるわ。
- ゲヴァ：ふーん……へえー……これがあんたの作った「レザー」ねえ。
まあ、悪くはないんだけど、処理も荒いし、なめし方も不十分だし、使える部分を見つめる方が大変なくらい。でも……
◇◇◇ あんた、革細工の才能、あるわよ。
そりゃあもう……この「レザー」の、使える部分と同じくらいには。
あら、一応、褒めているのよ？ ちゃんと一枚の「命」と向きあってモノを作り上げた。
ウチの革細工師の精神、わかってはいるみたいね。
場合によっちゃ今からでも叩き出そうと思ってたけど、真面目にモノを作る気はあるみたいだし。
指導はしてあげるから、ウチの革細工師として頑張んなさい。
あ、あんたの練習まで付き合わないわよ？ そのナイフを使って、しばらく自分で鍛錬してきなさい。
一から十まで言われなかったって、あんたならできるでしょう。
もう少し腕を上げたら、また顔を出しなさい。使いつ走りくらいなら、させてやらないでもないわ。



革製品の重み

ゲヴァ : あら、どここのチョコボの骨かと思ったら……◇◇◇じゃない。どう？ 革細工師の作業には慣れてきた？
ふうん、少しは腕を上げたいね。ちょうど手が空いたし、鍛錬の成果を見てあげようかしら。
そうね……「レザーチョーカー」を3つ、作ってみせてくれる？
そろそろ粗皮をなめすだけでなく、製品のひとつも作れるようになったでしょう。材料は「レザー」と「丈夫な腿」のふたつだけよ。
「丈夫な腿」は、前にも教えたと思うけどギルドの受付の隣に立っているオスギスから購入することができるわ。
「レザー」の元になる「柔らかな粗皮」もオスギスから買えるけど……実は、別の調達方法もあるのよね。
魔物を狩って手に入れることもできるの。「柔らかな粗皮」なら、「スクウィレル」なんかね。
手間はかかるけど買うよりは安あがりだし。非力なアタシには無理だけど、冒険者のあんたならできるんじゃない？
こんなヒント、最初だけよ。じゃ、できたらアタシのところに持ってらっしゃい。期待しないで待ってるわ。

ゲヴァ : 「レザーチョーカー」を3つ、持ってきた？

ゲヴァ : そうね……。確かにこれは、「レザーチョーカー」ね。
素材である「レザー」を「丈夫な腿」で縫い合わせさえすれば、オポオポにでも作れる何の変哲もない「レザーチョーカー」だわ。
……あら？ どうしたの？ 頼んだものを依頼どおりに納品できたんだから、上出来よ？
ま、時間もあることだし、一応「レザーチョーカー」について教えてあげる。
どんなに鍛え上げた兵士でも、鍛えることのできない急所のひとつ、それが喉よ。チョーカーは喉を守るための最も基本的な防具だわ。
ゴルゲットのような重い喉当てに比べたら頑丈さは劣るけど、誰でも装備できるのが利点よ。
デザインがシンプルだから、普段使いできるのも魅力ね。
シンプルなのは重要なことよ。新米革細工師が、皮の加工方法を学ぶ教材としても
ちょうどいいし……作り手の腕もよく反映されるってわけ。
とりあえず、あんたの今の腕前はわかったわ。エオルゼアにありふれた、月並みの革細工師としてはまあ、悪くないんじゃない？
それじゃ、真面目に鍛錬を積んできたご褒美に、「アマチュアアウル」をあげるわ。
アウルは「副道具」と呼ばれるもので、製作の精度を高めるために重要な道具よ。「主道具」であるナイフと併用するといいわ。
それを使って、精々成長していращゃい。またウツカリ時間ができたら、見てあげないこともないわ。
……期待してるわよ。



フェン・イルと革細工師

ゲヴァ : ヘえ、少しは腕を上げたみたいじゃない。ちょっと、私の仕事の手伝いをしてくれない？
ああその前に、念のために聞けど、あんた、「フェン・イル」は知っているわよね？

知ってる

そうよねえ。あんたみたいな疎そうな冒険者でも、エオルゼアに名を馳せる一大革細工ブランド
「フェン・イル」くらいは知っているわよねえ。

知らない

……………はあ、そう。あんたみたいな、いかにも疎そうな冒険者ならあり得なくもない、とは言え……
まさか、いち革細工師でありながら、エオルゼアに名を馳せる一大革細工ブランド「フェン・イル」を知らないなんて……まあ、いいわ。

で、その一流ブランド店の工芸「フェン・イル」に品を卸しているのが、ほかでもないウチの革細工師たちなんだけど……
この間、急に大量発注の依頼が入ってね。素材の「ハードレザー」が足りなくなっちゃったのよ。
どうにか調達しようと思ってるアタシ……そこに現れたのが、新米、駆け出し、使い走り革細工師の、あんた。
もう、わかったわよね？ 「ハードレザー」を1ダース。そう、きっかり12枚こしらえてもらっしやい。頼んだわよ！

ゲヴァ : 「ハードレザー」を1ダース。きっかり12枚よ。

ゲヴァ : あら、この「ハードレザー」……

……驚いた、よくできてわ。
「ハードレザー」は、皮を煮詰めて硬化させたもの。なめした革と比べると加工は難しいけど、
そのぶん強度と耐久性に優れているでしょう？
特に強度が要求される防具には、このハードレザーの性質が必要不可欠なのよ。
あんたのこの「ハードレザー」は求められた性質をしっかりと理解して作られてる。これなら、文句なし、ええ、ぴったりよ
ギルドの新入りの、「練習素材」に！
あら？ どうしたの？ もしかして、あんたのハードレザーを「フェン・イル」の品に使うとも思った？
やあねえ。フェン・イルに品を置けるのはアタシが認めた、ギルド屈指の職人だけ。
あんたの品なんて、素材だろうと置けたもんじゃないわ。
確かに在庫は足りなくなっただけど、発注のあった品の分は、なんとか工面したわよ。
代わりに練習用の素材が足りなくなって困ってたの。
そんなに、凹まないでちょうだい。新米の練習に使う素材を作ったってことは、わかる？ あんたはもう新米じゃないってこと。
あんたは初めてこのギルドにきた時から、着実に成長してる。この調子で腕を磨けば、きっといつかは……
……遠い未来、アタシの孫の曾孫から靴底の製作くらいは頼まれるようになると思うわ！
ああ、頼まれるといえは、そうね。そろそろアタシ以外の誰かの依頼をこなすことにも慣れておくといいかもしいわね。
冒険者ギルドのゴントランから製作稼業のギルドリーブを紹介してもらったらどうかしら。きっと、いい特訓になるわよ。
腕を上げたら、また顔を見せてね。できれば、アタシが生きてるうちに。それじゃ、引き続き鍛錬に励んでらっしやい。

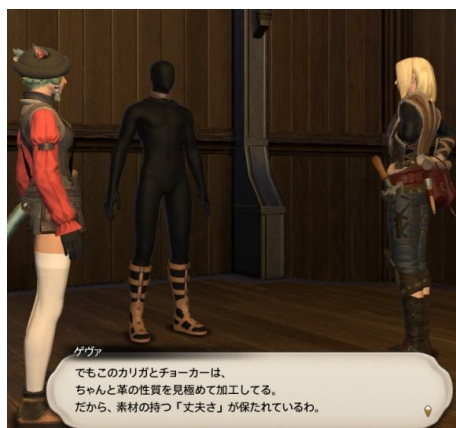
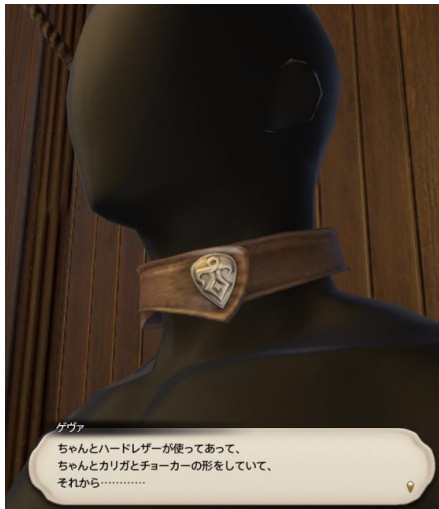


フェン・イルの根性

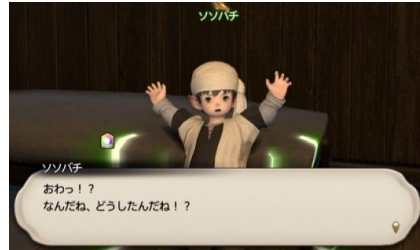
ゲヴァ： ああ、いいところに来たわね！ ちょっと手を貸してちょうだい。
大急ぎで「カリガ」と「ハードレザーチョーカー」を作ってきてほしいのよ。
別の革細工師に製作を任せてただけど、出来があまりに酷いから、ちょっと文句をつけたら、逃げ出しちゃって。
代わりに任せられそうな革細工師を探していたのよ。あんた、やれるわよね？
ああ、大切なことを言い忘れてたわ。これは、工芸「フェン・イル」に依頼された品よ。
あんたも腕を上げたいだし、そろそろ、ひと仕事、任せてみようってわけ。革細工師ギルドの名にかけて、失敗のできない仕事よ。
不安になった？ 「フェン・イル」の名を背負う、自信がない？
大丈夫、しっかりしなさい。散々アタシにしがかれて逃げ出さなかったのよ。あんたの根性は、アタシが一番知ってるわ。
たとえ依頼品がうまくできなくても、キッチリ客に頭下げに行く根性があるってことを、ね。それじゃ、任せたわよ！

ゲヴァ： 「カリガ」と「ハードレザーチョーカー」は、できたの？

ゲヴァ： あら、これは……………
ちゃんとハードレザーが使ってあって、ちゃんとカリガとチョーカーの形をしていて、それから……………
……………すごく、丈夫、ね。
知ってのとおり、ハードレザーは硬さがウリよ。だからこそ、丈夫な製品ができるわけだけど、曲げたり縫ったりするのも難しいってわけ。
下手な職人では、加工の途中で失敗して、最大の利点である「丈夫さ」を殺してしまうことがあるわ。
でもこのカリガとチョーカーは、ちゃんと革の性質を見極めて加工してる。だから、素材の持つ「丈夫さ」が保たれているわ。
…………成長したわね、◇◇◇。
でも、金具の埋め込みは甘いし、折り返しの処理は不十分だし、全体のバランスはイマイチだし、なんだかちょっと……………獣臭いわ。
「フェン・イル」の品にするには不十分ね。仕方ないわ、アタシが手直ししておくから、その間に、アンタは、別の仕事を頼まれてくれる？
これも、ひとりの職人として、重要な仕事よ。仕事をほっぽって逃げ出すようなヤツには任せられない、あんただからできること。
依頼人の「ソソバチ」さんに、納品が遅れます、ごめんなさいっ、て、誠心誠意、敬意をもって謝ってらっしゃい。



ソソバチ : 今回は、我が愛息子のために、一級の防具を整えてやろうと思ってね。こうして、完成を待ちわびているというわけだよ。
おわっ！？ なんだね、どうしたんだね！？
…………ふむ。依頼していたカリガとハードレザーチョーカーの納品が遅れる、と。
そうかそうか、いや、構わんよ。中途半端なものを渡すくらいなら潔く謝罪する、革細工師ギルドの姿勢は、昔から変わっとらんな。
しかし、君は見ない顔だね。新入りの革細工師かい？
……ほう！ チョーカーとカリガは君が作って、その手直しをゲヴァが行うから、納品が遅れると！
なるほど、なるほど。君はずいぶんゲヴァに気に入られているみたいだね。
客に謝罪に行かせるなんて、乱暴なようだけど、こうやって顔なじみの客に革細工師を紹介するのは彼女なりの気遣いだ。
ゲヴァが手直しして品になるだけのモノを作るなら、腕も確かだろう。
◇◇◇君と言ったか？ 君の成長、楽しみにしているよ。ハッハッハ！



命の潮流

ゲヴァ：あら、また少し、腕を上げたみたいじゃない。期待しなければいけないだけ、感動もひとしおねえ。
粗皮100枚なめしの仕事を任せようかと思ってたけど、気が変わったわ。今回は「マテリア」の装着に挑戦してごらん。
「マテリア」の装着っていうのは、使い込んだ装備品を「マテリア」っていう結晶にして武器や防具にくっつけて、性能を向上させること。
マテリアの装着ができるのはクラフターだけだから、やり方を学んでおけば、冒険者なら損はしないでしょう。
今回は「アルドゴートレギンス」に「マテリア」をひとつ、装着してごらんさい。
もちろん、必要な素材やマテリアは自分で調達するのよ。
「マテリア」には、いろんな種類があるんだけど、今回は練習だし、どれでも適当なやつをつけられればいいわ。
それと、マテリアを装着する防具について。「アルドゴートレギンス」の製作に必要な素材は「綿布」と「アルドゴートレザー」よ。
気をつけなきゃいけないのが、「綿布」も「アルドゴートレザー」も、グリダニアの商店街では手に入らないってこと。
「綿布」は、ザナラン地方の都市「ウルダハ」の裁縫の技術で作られる布だし、
「アルドゴート」ってのも、ザナラン地方の魔物だからね。
「黒檀商店街」のマーケットを使うなり、知り合いに頼むなりして、なんとかして手に入れるのも勉強よ。
精々頑張ってちょうだいね。
もし「マテリア」装着のやり方が分からないなら、中央ザナランの「狼煙の丘」を訪ねなさい。
変わり者のゴブリン族が、詳しく教えてくれるわ。
さあ、「アルドゴートレギンス」を仕立てて、「マテリア」を装着して持ってらっしゃい！

ゲヴァ：「アルドゴートレギンス」に「マテリア」はつけられた？

ゲヴァ：ふうん……まあ、悪くはないわ。
冒険者なら知っていることかもしれないけど、「レギンス」っていうのは、もともと、**布が柔らかい革を足に巻きつけて紐やバックルで留めたもの**を指したの。
今は太ももまでしっかりと覆うのが主流になってるけどね。軽くて柔らかいから動きやすい、森を歩く鬼哭隊や神勇隊、冒険者にも、うってつけの防具なのよ。
このアルドゴートレギンスは、そういった特徴をよく掴んで作られているわ。
「マテリア」も、ちゃんとつけられてるわね。大抵の駆け出しは、ちょっと面倒な仕事を任せるとすぐ泣き言を言うもんだけど……フフ、やるじゃない。
マテリア、触媒、装備品、どれが欠けても「マテリア」の装着は成り立たないわ。
何かを作るってことは、楽じゃないの。クラフターだからって、のんびり座ってモノを作ってるだけじゃいつまでたっても素人よ。
素材ひとつがどこで入手できて、何をえばどんな製品が出来上がるか。それを、さらに良くするためにはどうすればいいか。
真の職人をめざすなら……命に真摯に向き合うなら、考え続けて当然。その姿勢が、さらに腕を上げることに繋がるんだから。
まあ、まだまだ完璧には程遠いけど、それは言わば、アンタの伸びしろね。しごけばまだまだ伸びそうだわ。フフフ……。
グリダニアには毎年、特産品の「品評会」があってね。ちょっとしたお祭りみたいなものだけど、職人が腕を見せ合う場でもあるわ。
ギルドやブランドの「品質」を証明する機会でもある。毎年、アタシが代表として品を作ってるんだけど……努力次第じゃ、いつか品を出させてやらないでもない。いつか、がいづになるかは分からないけどね。
ま、その調子で、死ぬ気で頑張んなさい。

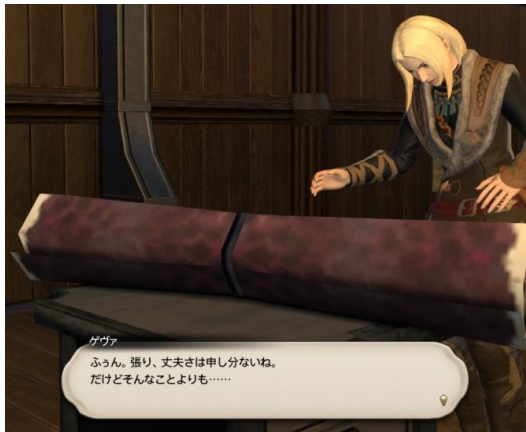


偽りの革細工

ゲヴァ : ああ、腹が立つ！ とっ捕まえて、面の皮をひん剥いて……
……あら、◇◇◇。いいところに来たわ、ちょっと聞きなさいよ！
まったく、腹立たしいったらないわ。ウルダハの商人が、ウチで買ったギガントードレザーが粗悪品だったって文句をつけてきたのよ。
これが、そのギガントードレザー。……ひどい臭いがするでしょう？
なめしが荒いから、「ぬめり」が残ったままなの。これを作った職人は、ギガントードレザー製作の注意点を何ひとつ、わかっていない。
このレザーは当然、ウチの品じゃないわ。こんな品をアタシが並べさせるわけないでしょう。
こんな風に、命を粗末に扱った品なんて……！
ウチの品でないにせよ、グリダニアの革細工師が、ずさんで、命に敬意を払わない仕事をすると思われたら、たまったもんじゃないわ。
というわけで……◇◇◇。あんたの出番よ。
グリダニアの革細工ギルドを背負う職人として、最高級の「**ギガントードレザー-HQ**」を1枚、作って、持っておいで！ 本当の革細工ってのを教えてやるのよ！

ゲヴァ : 「ギガントードレザー-HQ」を1枚、作りあげて、持っておいで！ 本当の革細工ってのを教えてやるのよ！

ゲヴァ : よし、持ってきたね。どれどれ……
ふうん。張り、丈夫さは申し分ないね。だけどそんなことよりも……
ギガントードレザーの最大の特徴、「耐刃性」を最大に引き出す加工ができています。この性質のおかげで、防具の要所に用いられるんだ。
しっかりなめされてるから、臭いもしない。やるじゃないか、◇◇◇！
それじゃ、仕上げのもうひと仕事だよ。この「ギガントードレザー-HQ」を「カーラインカフェ」の「**アイマル**」に届けてちょうだい。



アイマル : 私は！ 今！ 猛烈に怒っているんだ！！ あんな粗悪品のギガントードレザーを売りつけられるとは！
なんだねこれは？ 私は返金を求めたはずだ！ まったく忌々しい石頭の……
……！ こ、これは……！？
素晴らしいギガントードレザーだ……！ ううむ、トードの生臭さも、まったくくないぞ。
これならベルトやカバンへ加工しても問題なさそうだ。
君は、「フェン・イル」にも出品する職人なのか？ ……何？ ギルドマスターのゲヴァがこれを届けろと？
いったいどういうことなんだ？
……すまない、思い違いをしていたようだ。私がレザーを購入したのはフェン・イルではなく、「**アンクル・ボサ**」と名乗るブランドだ。
最近立ち上がった新ブランドで、**激安と早納をコンセプト**にしているらしい。そこで、あの酷いレザーを買わされてしまったのだ。
グリダニアの革細工ブランドと聞いたので、てっきり革細工ギルドの傘下だと思ったのだが……
詳細を確認もせずを買ってしまった自分が、商人として恥ずかしい。
本当に迷惑をお掛けした。とんだ失敗だったが、代わりにこんなに素晴らしいギガントードレザーに出会えて嬉しいよ。
謝礼は革細工ギルドに払っておこう。後で受け取ってくれ。

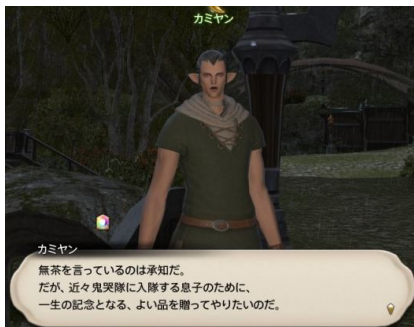


ゲヴァ : よくやったよ、◇◇◇！ あの商人、わざわざここまで来て謝っていったよ。
ふてぶてしいウルダハの商人にあそこまで言わしめるとは。随分と腕をあげたようじゃないか。
それにしても、「アンクル・ボサ」……。聞いたことのない名前だね。グリダニアの新ブランドだって？
はん！ 冗談じゃない。あんなレザーを作っておいて、革細工師を名乗るヤツの顔が見てみたいもんだ。
あんたも、もしそんな革細工師を見つけたら、とっ捕まえて面の皮をひっぺがして、
革靴に仕立てて、毎日踏み歩いてやりなさいね。

逸品たる使命

ゲヴァ： いいところに来たね！ アンタは本当に、いい革細工師だ！
……ええ、タイミングがね！
それはそうと、ちょっと頼みたい仕事があるのよ。
ついさっき、ギルドに製作依頼がきたの。急な依頼だったから、断ってしまったんだけど、でも、なんだか思いつめた様子でね……。
ちょっと話を聞きに行ってあげてくれない？ 依頼者は、「**カミヤン**」さん。
ここから北の、「セントールアイ」の方に行ったみたいよ。

カミヤン： 君は……革細工師ギルドの職人か？ ああ、わざわざ話を聞きに来てくれたのか。すまないな。
実は、「アングル・ボサ」という新興の革細工ブランドに革鎧を注文したところ、ひどい出来の鎧が届いたんだ。
見た目はそれらしいが、機能性に大いに問題がある。元、鬼哭隊員のワシの目はごまかせん。
早くて安いという謳い文句につられてな……。こんなことになるならば、始めから革細工師ギルドに頼むべきだったよ。
無茶を言っているのは承知だ。だが、近々鬼哭隊に入隊する息子のために、一生の記念となる、よい品を贈ってやりたいのだ。
どうか、君にトードジャケットの製作を頼めないだろうか。



ゲヴァ： ……そう、そう言うことだったのね。
親が子に、子が孫に。本物の逸品というのは、思いとともに受け継がれていくものの。
たしか、「トードジャケット」だったわね？ 大切な記念の品と聞いたら、断れやしないわ。
◇◇◇。依頼者の言葉を直に聞いたアンタに、製作を任せるわ。
最高級の「**トードジャケットH Q**」を1着、作ってらっしゃい。

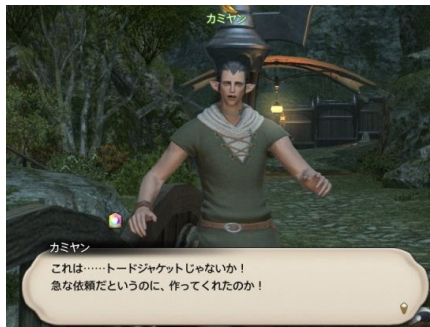
ゲヴァ： 最高級の「トードジャケットH Q」を1着、作ってらっしゃい。一生の記念品よ、責任と誇りをもって仕立てなさいね。

ゲヴァ： どれどれ……
へえ、腕を上げたじゃない。胴や肩当てに使われるギガントードレザーは、耐汚性と剛性が見事に引き出されているし……
しなやかなアルドゴートレザーを用いた、関節部の縫合も丁寧になされてる。悪くないわね。
動きやすさと防御性能を両立したトードジャケットの性能を、最高まで高めた出来だ。これなら、一生の記念品に相応しいだろう。
さあ、「カミヤン」さんに届けておいで。「セントールアイ」の近くで待っているはずだ。



カミヤン : 近々鬼哭隊に入隊する息子のために、一生の記念となるトードジャケットを贈ってやりたいのだ。
ああ、始めから革細工師ギルドに頼んでいけば……。

カミヤン : これは……トードジャケットじゃないか！ 急な依頼だというのに、作ってくれたのか！
この出来栄は……驚いたな。
間違いない。これは、私が今まで見てきた中で最高の革鎧だ。この品を息子に贈れることを、本当に嬉しく思う。
戦う者のことを熟知してなければ、このような品は作れないだろう。ひょっとしてこれは、君が……？
なるほど、親方ゲヴァは、君のような冒険者にも技術を伝授しているんだな。
彼女の素晴らしい技術が広まり、このトードジャケットのような素晴らしい製品がエオルゼア中に行き渡ることを願っているよ。



ゲヴァ : おかえり、喜んでもらえたようだね。
それにしても、「アンクル・ボサ」……。前回のギガントドレザーの件と言い、まったくもって、腹立たしいブランドだね。
まあ、どこの馬鹿の企みかは知らないが、いくら早くても、モノが悪くちゃ買い手はつかない。
すぐに痛い目を見ることになるだろう。
近々開かれる「品評会」は、絶好の宣伝の場だ。ブランドを名乗るからには品を出さないわけがないのさ。
目利きの職人や商人に、こき下ろされて、アンクル・ボサの職人どもが泡を吹く様を見るのが楽しみだ。

師匠のお墨付き

ゲヴァ： ちょっと、力を貸してちょうだい。今回はアタシから、直々の依頼よ。
近頃どうも、ギルドの職人らが浮き足立ってね……。なに、作らせた製品を見れば、よく分かるわ。
縫い目が荒かったり、処理が不十分だったり。余計なことを、うだうだ考えながら作った証拠よ。
例えば……「アングル・ボサ」のことかね。近頃、ウチのギルドへの依頼が減っているのを
新興ブランドに客が取られてるせいだって心配してるんだ。
まったく！ 職人が依頼の数を気に病んで、製品に迷いを縫いこむなんて、もってのほかよ。
ウチのギルドは、儲けようとしてるわけじゃない。そんな無用の心配するヒマがあるなら、
革の一枚でもなめして、腕を磨けてね！
そういうわけで、活を入れてやってほしい。最っ高の「ボアリングバンドH Q」をひとつ、作ってくれる？
本当にいい製品とは、どんなものかを見れば、あいつらだって目を覚ますだろうからね、頼んだよ！

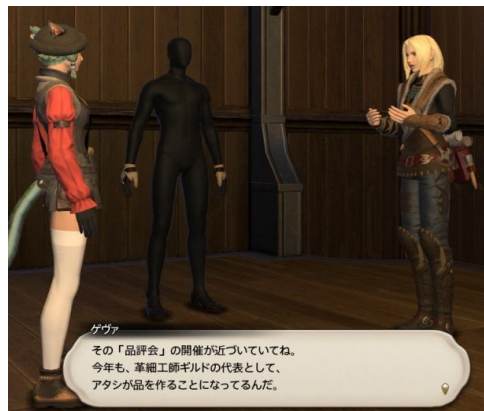
ゲヴァ： 「ボアリングバンドH Q」は仕上がったかい？

ゲヴァ： ふん、いい出来じゃない。ちゃんと必要なポイントをおさえて作れたみたいね。
丈夫で摩擦に強く、軽いという特性を持つボアの革と、スチール製のリングを組み合わせたのがこの「ボアリングバンドH Q」。
軽く、身に着けやすいことを重視した防具よ。シンプルだけど、隅々まで気を遣って作り上げないと、
魔法を操るソーサラーの集中を妨げてしまうわ。
あんたのボアリングバンドH Qは、余計なものをすべて取っ払い、必要な箇所には細心の注意が払われてる……。
なかなかやるじゃないか。ギルドで管を巻いてるやつらも、これを見せれば心を入れ替えるだろう。
あんたが初めてウチのギルドに来た時にはどうなることかと思ったけど……。
これだけ腕をあげれば、安心して仕事を任せられそうだ。
以前、グリダニアでは定期的の特産品の「品評会」が開かれるって言ったら？
ギルドが品を持ち寄って、新作や技術を披露しあう場よ。
その「品評会」の開催が近づいていてね。今年も、革細工師ギルドの代表として、アタシが品を作ることになるんだ。
そんなわけで、ギルドの仕事を少し離れるつもりよ。まったくやらないって訳じゃないけど、
あんたには、かなり仕事を任せたくてね。
言わば、ギルドマスターのアタシの代わりってわけ。覚悟して腕をよーく磨いておくこと、いいよね？



ゲヴァ

丈夫で摩擦に強く、軽いという特性を持つボアの革と、
スチール製のリングを組み合わせたのが
この「ボアリングバンドH Q」。

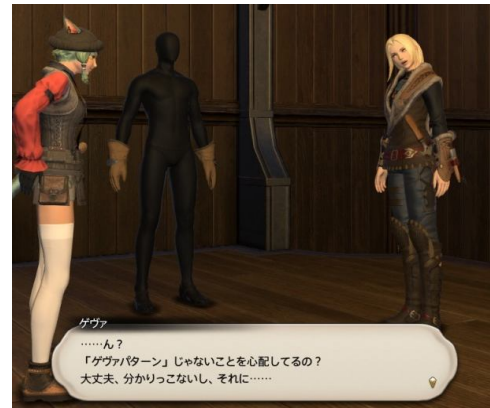
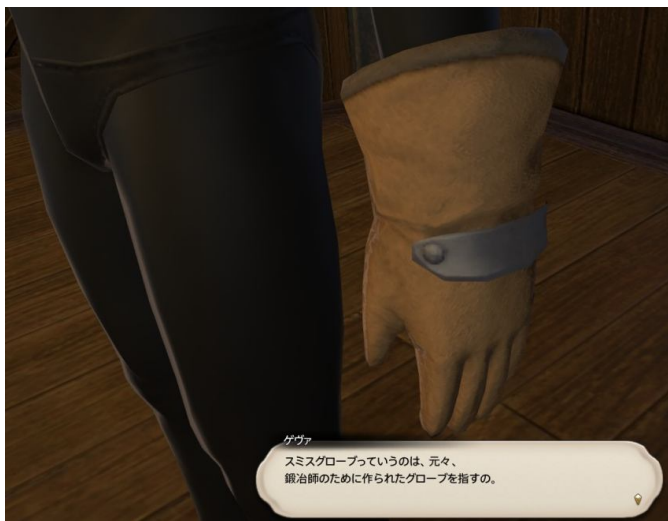


ゲヴァ

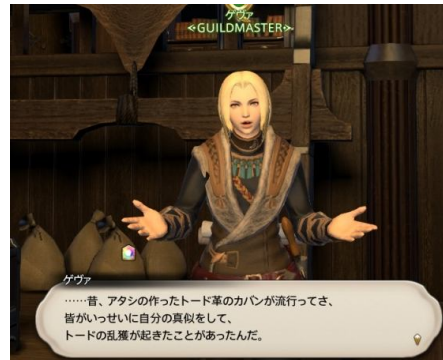
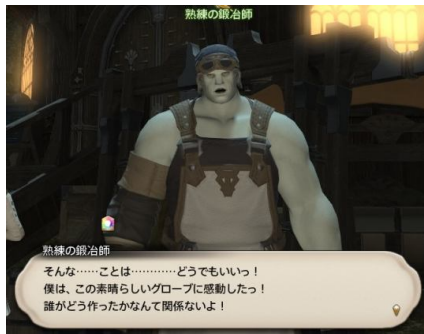
その「品評会」の開催が近づいていてね。
今年も、革細工師ギルドの代表として、
アタシが品を作ることになるんだ。

ゲヴァパターンの真実

- ゲヴァ： はあ……まったく、忙しい時に限って厄介な依頼が来るんだから。
アタシが「ゲヴァパターン」で仕立てたボアスミスグローブHQの注文よ。
どうせ「ゲヴァパターン」の意味も知らないくせに、こういう依頼が尽きないのよねえ……。ご指名はありがたいけど、考えものだわ。
……そうだわ、ちょうどいい。ちょっとあんた、この依頼に挑戦してごらんよ。
「ボアスミスグローブHQ」を、今のあんたの「本気」で仕立てあげて、持てきな。つべこべ言わずに、ほら、任せたわよ！
- ゲヴァ： 「ボアスミスグローブHQ」を、あんたの「本気」で仕立てて、持てきな。
- ゲヴァ： スミスグローブっていうのは、元々、鍛冶師のために作られたグローブを指すの。
熱せられた金属を加工する鍛冶師の手元を、高熱から守るために、丈夫な革を使って作られたのがボアスミスグローブHQ。
ボアの革の特性は、以前、教えたわね？ 軽くて丈夫で、摩擦に強いということ。
繊細な作業の妨げにならないよう、ボア革の軽さを活かし、標準的なグローブ……5本の指が、独立して覆われる型に作られているのよ。
よし、上出来ね。それじゃこれを、工芸「フェン・イル」にいる、依頼人のところに持っていきなさい。
……ん？ 「ゲヴァパターン」じゃないことを心配してるの？ 大丈夫、分かりっこないし、それに……
……まあとにかく、届けてらっしゃい。職人が依頼人を待たすんじゃないわよ。
帰ってきたら「ゲヴァパターン」の意味を教えてあげるわ。



- 熟練の鍛冶師： 革細工師ギルドの親方ゲヴァさんに、「ゲヴァパターン」の「ボアスミスグローブHQ」を頼んだんだ！ ああ、楽しみだなあ！
- 熟練の鍛冶師： おや、革細工師ギルドの職人さんかな。頼んでいた品を届けに来てくれたんだね！ どれどれ……
おお、こ、これは……なんて美しいグローブだ！ はあ……さすがは「ゲヴァパターン」だ……！
……おや、どうしたのかい、何か言いたそうだね？
- 本当のことを言う？ いいえ
いやいや、そんな顔をされたら気になってしまうよ。報酬が足りない、それとも別のものがいい？ さあ、なんでも言ってくれよ！
- 本当のことを言う？ はい
なにに……えっ？ このグローブは「ゲヴァパターン」じゃないって！？
そ、そんな……
そんな……ことは……どうでもいい！ 僕は、この素晴らしいグローブに感動したっ！
誰がどう作ったかなんて関係ないよ！
それに……実を言うと、僕「ゲヴァパターン」の意味を知らないまま頼んでしまったんだ。あはは、お恥ずかしい。
このグローブが「ゲヴァパターン」でなろうと、またとない逸品であることは、変わらないよ！ 僕は、それだけで満足さ！
とにかく、この素晴らしいグローブを作ってくれた君にお礼を言わせてほしい。ありがとう！ 「ゲヴァ」さんにも、そう伝えてくれ。



ゲヴァ： ふふふ……。 「大丈夫」だったろ？ じゃ、約束どおり、「ゲヴァパターン」の意味を教えよう。

「ゲヴァパターン」ってのは、デザインでも模様でもない、**型紙のとり方**のことなのさ。

1枚の皮を無駄なく使うために、アタシが考案した、ね。

……昔、アタシの作ったトード革のカバンが流行ってさ、皆がいっせいに自分の真似をして、トードの乱獲が起きたことがあったんだ。

生命を金に変えるような所作には腹がたったし、生命への敬意を忘れた品が、はびこるのが悲しかった。

だからアタシは、「ゲヴァパターン」を考案した。この型紙のとり方じゃないと、

アタシのカバンは作れないって言ってやったってわけ。

お陰でトードの乱獲はおさまったけど、代わりに、いつのまにか名前が一人歩きしちゃってねえ。いろんな誤解が生まれたのさ。

いいかい、本当にいい品っていうのは、デザインや、型紙で決まるものじゃない。使い手への思いやりと生命への敬意よ。

……◇◇◇。あんたは、いい革細工師になったね。でも、気を緩めるんじゃないよ。

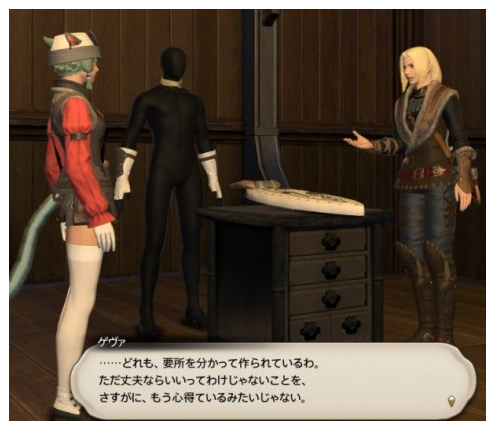
職人は一瞬一瞬が勝負なんだ。もしも半端なものを作ったら、アタシが「無駄なく隅々まで」なめしてやるからね！

革細工師ギルドの危機

ゲヴァ： ああ、いいところに来たわね！ 顔を出したってことは、ヒマなんだろう？ ちょっと手を貸してちょうだい！
依頼を任せてた冒険者の革細工師たちがいっせいに逃げ出しちまって、人手が足りてないの。
ちよいと多いけど、あんたに製作を頼みたいわ。
「ラプトルフィンガレスグローブHQ」と、「ラプトルタージェHQ」、「ラプトルチョーカーHQ」。
これらを、ひとつずつ仕上げて持ってきてくれる？
納期は、とっくに過ぎてしまってる。お詫びに、すべて、とびっきりの品に仕立ててくれ。
まあ、あんたなら言わなくても、全力を尽くすだろうけど。

ゲヴァ： あんたに頼みたいのは、「ラプトルフィンガレスグローブHQ」と「ラプトルタージェHQ」「ラプトルチョーカーHQ」が、ひとつずつよ。

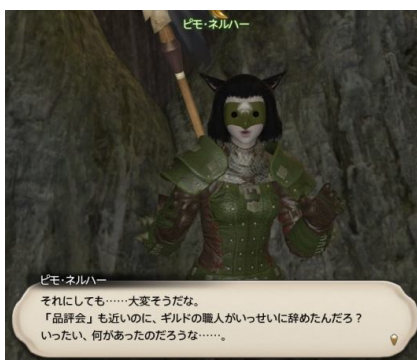
ゲヴァ： ラプトルフィンガレスグローブHQ、ラプトルタージェHQ、ラプトルチョーカーHQ。
この共通点は、ラプトルレザーが使われているところ。
俊足を誇る肉食トカゲ、ラプトルの革は、とてもしなやかで、なおかつ多少のことでは傷つかない。それだけに、加工は難しいわ。
フィンガレスグローブは、指先を露出させた型のグローブで、特に、武器に触れる指先の感覚を重んじる
ファイターに好まれる防具よ。
チョーカーは、急所の喉元を守る大切な防具。敏感な場所を守るだけに、しなやかさと丈夫さを
最大限に活かした加工が求められるわ。
それからタージェ。防御だけでなく、相手を威嚇したり、攻撃手段として使われることもあるわ。
勇ましい飾り付けは、使い手の心を鼓舞するでしょう。
……どれも、要所を分かって作られているわ。ただ丈夫ならいいってわけじゃないことを、
さすがに、もう心得ているみたいじゃない。
それじゃ、長ったらしいウンチクはおしまい。時間もないことだし、大急ぎで依頼人に届けてくれる？
ラプトルフィンガレスグローブHQは、豊饒神祭壇の衛兵「ビモ・ネルハー」に。
ラプトルタージェHQは、カーラインカフェにいる「リユーリック」に。
ラプトルチョーカーHQは、木陰の東屋の「ナゴ・ジャワントル」よ。
それじゃ、頼んだわよ！ ……ふう、あんたのお陰で、ようやく「品評会」用の品の仕上げに入れるよ……。



ピモ・ネルハー：革細工師ギルドに依頼した、「ラプトルフィンガレスグロブHQ」を待っているんだ。
はあ……うっとりする仕上がりだね。自分のためだけに作られたかのように手に馴染む。
どれだけ待とうと、革細工師ギルド以外には頼めんよ。
それにしても……大変そうだな。「品評会」も近いのに、ギルドの職人がいっせいに辞めたんだろ？
いったい、何があったのだろうな……。

リュウリック：おっ、革細工師ギルドの職人だな？ 頼んでた「ラプトルタージェHQ」が待てど暮らせど届かなくて困ってるんだ……。
おお、こいつはすげえや！ 革細工師ギルドの職人の腕は、やっぱり見事だな。
待った甲斐があったってもんだ。ありがとな！
噂といえば、革細工師ギルドが、大変なんだって？ 冒険者の職人が逃げ出したとか聞いたけど。
おおかた、金の稼げる仕事に流れたのかねえ。

ナゴ・ジャワントル：おい、革細工師ギルドの職人か！？ 依頼した「ラプトルチョーカーHQ」が届かないんだが、
いったいげんたい、どれだけ待たせるつもりだ！
あーあ、こんなことなら新興ブランドの「アンクル・ボサ」に依頼すればよかったよ！
革細工師ギルドだって、大したことはないだろう！？
んむ、むむむ……！？ こっ、このラプトルチョーカーHQは……！ なんて美しく、しなやかで、丈夫な……
……いやいや。チョーカーなんて単純な防具、誰でもこのくらい作れるさ！
そもそも、納期を破るようじゃ職人失格だ。「品評会」で毎年、最高賞をとってるからって慢心にも程があるんじゃないか？
あんたら革細工師ギルドなんて、もう時代遅れだよ。今は早さと安さの時代っ！
あの、分かんず屋のお頭に、よく教えてやるんだな。



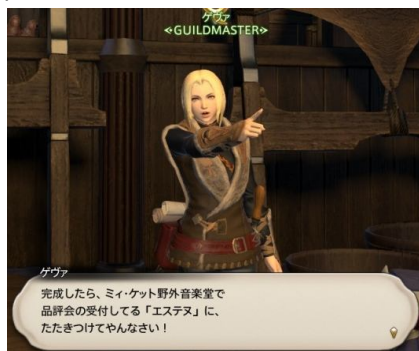
ゲヴァ：ああ、お帰り。ぜんぶ届けてくれたかい。……納期を破るようじゃ、職人失格だって？ ははは、痛いところを突かれたね。
そう、まだ納品を待ってる客がいる……。ウチの……革細工師ギルドの品を待ってる人が。
決めた……品評会の品を作るのは、やめだ。今の今まで迷ってたが、アタシが本当に作りたいのは、
ウチの革細工を必要としてくれる人のための品だ。
ウチのギルドが時代遅れだなんて思っないし、やり方を変える気はない。
だから、アタシはアタシなりにけじめをつけるよ。
品評会は、また来年出せばいいんだ。さて、もうひとふんばりするかな。今回は助かったよ、ご苦労だったね。



命輝く名品

ゲヴァ : ああ、◇◇◇、また、いいところに来たね。ちょっと頼まれてくれないかい？
時間は取らせないよ。品評会への出品をやめたから、製作は間に合ってるけど今度は、配達が追いつかなくなってしまってるね。
悪いけど、アタシが作ったこのチョーカーを、「口笛粉屋」にいる依頼人に届けてやってほしい。
依頼人たちは、ウチの品の到着を楽しみにしてくれているんだ。一刻も早く届けてあげてくれ、頼んだよ。

ダウイッド : 革細工師ギルドの職人だな。依頼の品を届けに来たのか？
ふん……。あいかかわらず手間ばかりかけた、まどろっこしい作り方をしているようだね。
君は、冒険者だろう。革細工師ギルドなんてやめて、ウチの所で働かないか？
私は、革細工ブランド「**アングル・ボサ**」の**オーナー**。ウチにいる職人はほとんど、革細工師ギルドをやめて来た冒険者たちだね。
革細工師ギルドの品は、確かに丁寧に作られている。だが……些細な違いだ、客だって気づきはしない。
だというのに、手間と時間をかけて何の得がある？
ギルドマスターに付き合わされ、苦労しているだろう？ あんなギルドとは、さっさと縁を切るべきだ。
もちろん、すぐ決めるとは言わない。
近く開催される「品評会」に来てくれたまえ。我がアングル・ボサが、最高賞を獲得する瞬間を見てから、決めればいい。
毎年、最高賞を獲得していた革細工師ギルドが今年に限って出品しないのは残念だが……
ふふふ、彼女の意思なら、仕方ないことだな。



ゲヴァ : ……ああ、お帰り、配達してくれたのね。……実は、品評会について妙な噂を聞いたのよ。
開催直前の今になって、出品予定だった革細工師たちが次々と参加を辞退しているらしいの。しかも、受賞候補の腕利き職人ばかり。
……どうも、きな臭いと思わないか？ あんた、何か、心当たりがないかい？ 納品先で何か聞いたとか……
なに、あの粗悪品を作る革細工ブランド「アングル・ボサ」のオーナーが、最高賞を獲得するって宣言してたって？
……なるほど、そういうことね。アングル・ボサのオーナー「**ダウイッド**」は、昔**ウチのギルドに所属していた冒険者**だわ。
適当な仕上げをしていたのを、ちょっと叱ったら、腹を立ててギルドを辞めてったのよ。
腕利きの職人の辞退は、十中八九、アングル・ボサのしわざでしょうね。出品できないよう何か仕組んだに違いないわ。
万が一にも間違っても、あのブランドが賞なんてとったら、その噂だけであのブランドに注文してしまう人もいるわ。
命に敬意を払わない品がエオルゼアに広まってしまう……。あの、トード革のカバンと同じように……。
そんなの……許せない。
◇◇◇、革細工師ギルドマスターからの、最後の依頼だ。あんたが、やつらを止めるのよ。
最高品質の「**ラプトルジャーキンHQ**」を仕立て、「**器識のマデリダ**」をつけて「品評会」に出すんだ。
ラプトルジャーキン・の製作は一筋縄ではいかないわ。だけど、アタシのしごきから逃げずにここまで来た
あんたの腕は、このアタシが保証する。
完成したら、ミィ・ケット野外音楽堂で品評会の受付してる「**エステヌ**」に、たたきつけてやんなさい！

エステヌ : 「品評会」は、間もなく始まります。えっ……「品評会」に出品したいですって……？
そろそろ、出品物の受付を締め切るところでした。危ないところでしたね。

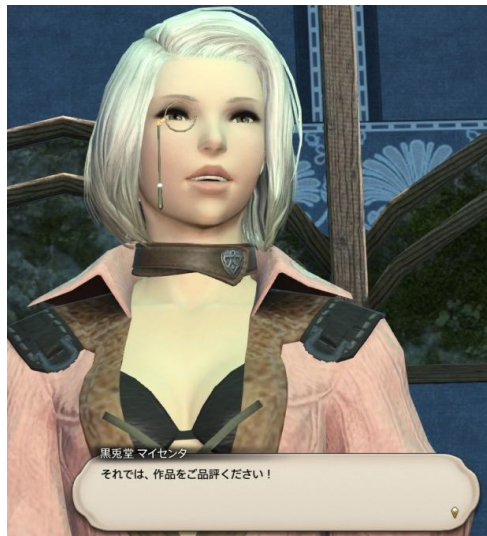


ゲヴァ : ギリギリ間に合ったようだね。

エステヌ : ゲヴァさん！ 結局、出品されることにしたんですね！

ゲヴァ : いいや。今年は、こいつが出品するのさ。

エステヌ : さあ、急いでください。そろそろ、品評会が始まりますよ。



黒兎堂 マイセンタ : それでは、作品をご品評ください！
続いての作品です。今年の品評会は、開催直前に出品取り下げが多数あり、審査は非常に難航するものと予想されていますが……
次は、優勝候補と目される「アンクル・ボサ」のラプトルジャーキンです。

イウエイン : 裁断はやや粗いが、しっかり革を重ねてあるから防護性は、今までの中で一番まともだな。

ベアティヌ : 革のなめし具合にバラつきがあり、色ムラがありますが、強度は十分なようです。今年の優勝は、これで決まりですかね……。

ゲヴァ : だが、そのジャーキンひとつに、いったいどれだけのラプトルレザーを使ったんだ！？

ダウウッド : なぜ、おまえがここにいる！？ 出品を取りやめたはずじゃ……。

黒兎堂 マイセンタ : それでは、最後に「革細工師ギルド」の作品です。

ゲヴァ : このジャーキンを作ったのは、こいつさ。これ程のジャーキンに対して、素材はアンクル・ボサの半分も使ってない。

オ・アバ・ベシ : 実に美しい……この革鑑からは命の脈動を感じます……。

フブチャ : 素材が持つ魅力を最大限に引き出しているのね。無駄に切った跡や、不用な縫ぎ目が見られないわ。

ルシアヌ : それでいて、使い心地も良さそうね。野外活動に欠かせないしなやかさに加え、十分な丈夫さを備えているもの。

ミューヌ : 多くの冒険者を見てきたけれど、こんな逸品を創り上げた者は、見たことがないよ。



黒兎堂 マイセンタ : 評価の結果がまとまりました。今年の品評会、最高賞は……
冒険者◇◇◇のラプトルジャーキンに決定しました！

鬼哭隊 : アンクル・ボサのオーナー、ダウイッドだな？
近頃、職人たちに対する恐喝、盗難、嫌がらせが多発していた件について少々話を聞かせてもらいたいのだが、同行願えるか？

ゲヴァ : さ、アタシたちもギルドへ戻ろう。

ゲヴァ : よくやったね、◇◇◇。もう、アタシから教えることはない。あんたは一人前の革細工師だ。
さて、弟子も独り立ちしたことだし、これでゆっくり自分の革細工に専念できる……
……と思ったんだけどねえ。
実は、ウチを辞めてアンクル・ボサにいった革細工師どもが、雁首揃えて戻ってきたのよ。
あんたが教わったように、革細工を学びたいってね。
昔のアタシだったら、有無をいわず叩き返すところだろうけど、ちょっと考えが変わったわ。
誰だって一度や二度、失敗はするさ。この、アタシだって。大切なのは、そこから学ぶこと。
甘ったれた根性から鍛え直した。やれやれ……忙しくなるね！
ま、いつかアタシのしごき乗り越えてあんたみたいな革細工師が、ひとりでも増えるなら苦労のしがないがあるってもんさ。
本当に、ご苦労だったね。これからは、あんたの革細工品をエオルゼア中の人々に使ってもらえるよう頑張りな。
フン、たまには顔を見せな。いつでも待ってやるからさ。



登場人物

ケヴァ：革細工師ギルドマスター



ダウウッド：アンクル・ボサのオーナー



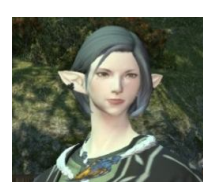
エステヌ：品評会受付



マイセンタ：黒兎堂員



オ・アバ・ベシ：幻術師ギルド？ ミューヌ：カーラインカフェマスター



ベアティヌ：木工師ギルドマスター



フフチャ：園芸師ギルドマスター



ルシアヌ：弓術師ギルドマスター



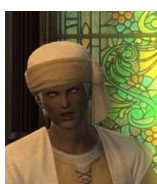
イウェイン：槍術師ギルドマスター



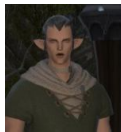
ソソバチ：依頼人



アイマル：依頼人。ウルダハの商人



カミヤン：依頼人 熟練の鍛冶師：依頼人



ビモ・ネルハー：依頼人。豊饒神祭壇の衛兵



リューリック：依頼人



ナゴ・ジャワントル：依頼人



ランドル：革細工師ギルド受付

